

## 平成 11 年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

### 「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」

#### 総括報告

主任研究者 樋口 恵子

東京家政大学教授

**研究の概要** 「生涯を通じた女性の健康づくり」への関心が国内外とも高まりつつある中、以下4つのテーマで3カ年計画で研究を進めているが、2年次にあたる平成11年度は、以下のような研究成果を得た。

#### 分担研究者

北村邦夫（社団法人日本家族計画協会  
クリニック所長）  
樋口恵子（東京家政大学教授）  
戒能民江（お茶の水女子大学教授）  
村松泰子（東京学芸大学教授）

春期専門外来のデータベースを作成し全国関係機関に配布した。本年度はさらに「全国思春期相談施設一覧」をまとめた。また思春期相談を科学的効率的に実施するために Evidence Based Me-dicine に基づいた相談マニュアル三部作（産婦人科、泌尿器科、精神科）を作成した。最終年度は思春期の保健対策を強化するための方策について、直接若者たちの意見を収集しながら提言をまとめたい。

#### （1）思春期総合保健対策に関する研究（北村班）

本研究は思春期の妊娠、避妊、中絶、STDなどのテーマに加え、この世代が抱える性の悩みについて現状を明らかにし、その対応策を図ることを目的としている。現状においては思春期の子どもの抱える問題は大きく多様であるにもかかわらず、その対応はことのほか不適切なことが多い。初年度はわが国における思

#### （2）中高年女性の総合的健康対策に関する研究（樋口班）

高齢女性の健康は、増大する高齢女性人口、とりわけ21世紀のアジアにとっては重大な意味をもつ。樋口班は、高齢女性の健康はその入り口である更年期の健

健康管理が適正に行われたか否かによって大きく影響される。このような仮説に立って初年度は国内を中心に調査を行ってきたが、2年次にあたる本年度は、調査票を韓国語と中国語に翻訳し、交流のある現地の研究者・研究機関の協力を得て調査票を回収、韓国（522票）についてはすでに集計分析を終了して本報告所に収録、中国に関しては最終年次に収録の予定で分析中である。また本年度はインドの更年期について来日中のインドの研究者からヒヤリングを行なう機会を得た。また、高齢者介護と思春期の子育てに悩む更年期の女性の心情について、関連調査（1997年・高齢社会をよくする女性の会、東京女性財団助成事業）から自由記述の個票の整理に着手した。

また本年度は新たに、更年期を経た高齢女性の健康歴・生活歴（Herstory of Her Health）のアンケート調査をスタートさせている。80代以上の元気な女性41人から詳細な聞き取りが得られ、これを試験調査と位置づけ、最終年度にはさらに多くの実例を収集して分析し、研究をまとめる予定である。

### （3）女性に対する暴力と健康に関する研究（戒能班）

近年わが国においてもDV（ドメスティックバイオレンス）が注目され、東京都をはじめ自治体、さらに最近では国も調査を行なうなど行政的課題としてクローズアップされている。しかしそれは、暴力の顕在化とその対応にとどまり、暴力が女性の心身の健康に与える影響については、ほとんどその実態が明らかにされていない。戒能班では、第一に、WHO・DV他国間研究チームの統計・調査委員会が構築した研究枠組みに沿って、コア調査票7次ドラフトのプリテストを日本の国内で行なったところ、その精度が確認された。第二に、医療におけるDV対応の現状と課題を明らかにするために、

国公立総合病院の医師（脳外科、整形外科、小児科）および看護職、ソーシャルワーカーにインタビューを実施。その結果、生命の危険があるほどのDV被害の現状とDV対応の不十分さが浮き彫りになった。医療機関がDVを発見し対応する方法の確立は、アメリカ、カナダなどが行政の対応をはじめ先行しているが、本年度はアメリカDV防止基金が作成したマニュアルを邦訳し、報告書に収録している。最終年度には、日本の行政・医療機関において、女性の生涯の健康保持のための暴力対策の立案につながる提言をまとめた。

### （4）メディア情報が女性の健康に及ぼす影響に関する研究（村松班）

マスメディアが女性の性と健康に関する情報をどのように発信しているか、また女性にとってどのような意味をもつかについて研究をすすめている。初年度は、中高生への質的量的調査と中高年女性への質的調査を行ない、並行してメディア内容を分析した。本年度は、第一に思春期女子への見知らぬ成人男性の視線や行動の実態を彼女たちの経験から調べた。東京都杉並区、静岡県浜松市に居住する15～17歳女子（高校生年齢）各1000人を無作為に抽出し調査票を郵送、回答結果を分析した。回答者の5人に1人が性行為への代償に「お金をあげる」という誘いを受けた経験を持つ、という結果が明らかになっている。また、おとな向け雑誌記事見出し分析では「援助交際」ということばが97年にもっとも使用されたことなどがわかった。記事の語り方、雑誌のジャンルによる特徴などの分析方法を来年度に向けて検討中である。第二に、中高年女性20人を対象に、1週間のテレビ視聴状況と食品・日用雑貨の購入状況を調査し、テレビの健康関連番組の内容との対応の有無をみる方法の妥当性について検討した。